

# 日本語バージョンと英語 で吹き替えた映画の比較

(Japanese vs. American-dubbed Movie  
Language Comparison)

82-373 Structure of the Japanese Language | 古畑弥生・Furuhata, Yayoi

---

## 1. はじめに

私の日英語比較プロジェクトのトピックは、アメリカでとても人気があった日本の映画の英語バージョンはどう日本語のバージョンと違うかを研究する。なぜこのトピックを選んだかは、私が小さい時から日本の子供達と似て宮崎の映画を見てきた。アメリカの子供は、デズニーだけ見てきたと思っていたが、カーネギーメロン大学に来て、初めて宮崎の映画を見てきたアメリカ人に会った。でも、そのアメリカ人が見てきた宮崎の映画は、英語で吹き替えた映画だった。なので、私が見てきた映画と同じか疑った。だから、この映画の解釈の違いをこのプロジェクトで勉強したい。このトピックを調べるために、私は、アメリカでとても人気があった日本の映画を使う。とくに、大事な場面や主題の解釈が違うかを調べたい。そして、違いがあれば、なぜその違いがあるかをわかりたい。調べると、宮崎の『千と千尋の神隠し』映画が特にアメリカで人気があったので、データを探すつもりだ。カーネギーメロン大学生に抛れば、日本の映画の中で『千と千尋の神隠し』が小さい時から大好きな映画で一番印象があった日本の映画みたいだ。そして、日本人とアメリカ人が映画の解釈や意見を書き表してるブログも使う。

## 2. 日本語バージョンと英語で吹き替えた映画の比較

### 2. 1. 大事な場面の解釈の比較

#### 2. 1. 1. 名前

『千と千尋の神隠し』の大事な主題は、氏名や自分の身元だ。それは、映画の大事な文は、千尋と言う主人公がその霊界に生きるために名前が千に変化する。そして、人間の世界に帰るためにはその名前を忘れていけないことだ。その理解が日本のバージョンの方がアメリカのバージョンより強く証明している。例えば、この場面では、千が友達から貰ったカードを読んで、こう言った：

『私もう取られかけていた<sup>1</sup> 千になりかけていたもん<sup>2</sup>。』 (0:49:04)

でも、英語のバージョンでは、こう言っていた：

“I can't believe I forgot my name<sup>1</sup>!” 日本語に翻訳すると、「自分の名前を忘れたとは信じられない。」

## 2. 1. 2. 解釈が違う理由

この一つの文には、たくさん違いがある。最初の違いは、日本語では、「もう取られかけていた」と言っているけど、英語では「I forgot my name」と言っている。日本語は、よく「もう～かけていた」を使う。その意味は、二つある。1つは、すでに起きていると意味がある。もう一つは、そうなってきているという意味がある。この場面では、二番目の意味の方が合っている。なので、「I almost forgot my name」が元の意味に近い。でも、英語では、almost forgot と forgot は、同じ意味がある。それは、日本語は、変わりつつある言葉を使うが英語は起きたことを言う。この場面や映画の中でよくある解釈文の違いの原因だ。

## 2. 1. 3. 文化について、なぜその言葉を選ばれたか。

次の違いは、文化の違いによる。それは、日本では、魂や霊界のことは、常識だ。でも、アメリカでは、その生れ変わるコンセプトを信じている人は少ない。なので、英語のバージョンでは、「I almost turned into Sen」と言っていない。それは、千尋がそのことを言っていたら、このコンセプトを映画の中で説明しなければいけない。その映画の流れに入れることは難しいので、アメリカのバージョンにはないが日本語のバージョンでは、「千になりかけていたもん」が入っている。

## 2. 2. 状況焦点対人間焦点

### 2. 2. 1. 顔なしの場面

映画の面白い場面は、顔なしが油屋に入って、妨害する。それは、従業員や店員が顔なしがたくさんお金を持っていることを見出して、顔なしに扱う。勤務者は、顔なしに食べ物や儀式をする。その間、顔なしは、こう言った：

「俺は、腹ペコだ<sup>1</sup>。全部持って来い<sup>2</sup>。」(2:04:32)

英語のバージョンでは、顔なしがこう言っていた：

“Just keep the food coming<sup>2</sup>. I want to eat everything<sup>1</sup>.”

この言った文は、違いがあり、日本語と英語の差がはっきり見える。

### 2. 2. 2. どう違う理由

この二つの文には、違いたくさんある。最大の違い（1）は、状況焦点と人間焦点の違いが見える。日本語のバージョンでは、顔なしが「俺は、腹ペコだ」と言った。

その主語は、お腹だ。詰まり、状況のことを話している。でも、英語のバージョンでは、顔なしが「I want to eat everything」を言っている。その文では、「I」が主語で、その顔なしの描写を言っている。その違いは、日本語と英語の発想法が違うからだ。それは、日本語は、状況焦点と非人間焦点で、英語は、人間焦点だ。この文にはっきり見えるが、日本語は、人間を主語にしない。なので、「私は、全部食べたい」と言わない。英語は、全部はっきりと言って、人間を主語にする。なので、「I」をよく使う。その上、日本語は、よく音を使って、表現する。この文では、「ペコ」をお腹のことを叙している。「ペコ」は、お腹が何もない時の音で、お腹が空いている意味がある。英語は、こういう音の表現がなくて、ただ hungry という。

次の文（2）は、違う差が見える。それは、日本語は、言おうとすることを十分に述べないが英語は、言おうとすることを詳しく述べすぎる。この文では、日本語は、「全部持って来い」を言っているが、英語は、「Just keep the food coming」と言っている。その中、日本語は、ただ「全部」を使っているが、英語は、きちんと「food」を書いている。それは、日本人は最低限の言葉の手がかり、完全なシナリオを作り上げなくてもいい。だから、顔なしがただ「全部」と言えば、映画を見ている日本人は、その場面の言葉によらないコミュニケーションを見て、食べ物のことだと分かる。でも、アメリカ人は最大限の言葉の手がかりが必要だ。なので、「everything」と言うとアメリカ人は、たくさんの食べ物の意味じゃなくで、食べ物以上の物を思う。

## 2. 2. 3. 文化について、なぜその言葉を選ばれたか。

Hinds (1986) *Situation Focus vs. Person Focus*によると、日本語と英語の表現の差は、状況焦点と人間焦点の違いのせいだそうだ。英語話者と日本語者の考えが小さい時から違うので、映画にも文の言う方が違っている。その日本語のバージョンと英語のバージョンの文の意味は近いが、その文の焦点を当てることは、違う。それは、映画を見ているアメリカ人に、発想法を不自然にするためには、その文の焦点を当てることを治さなければいけない。

## 3. おわりに

暫定的な結論は、日本のバージョンとアメリカのバージョンは私が思ったほど違いがなかった。私が最初に英語のバージョンを見た時、大事なシーンの解釈の違いがあまりないと思った。また、映画を見たとき一番大きな違いは、魂や霊界のことのコンセプトだ。信じていることがアメリカ人と日本人は違うので、仕方なく、文や言うことも違う。その上、この映画は子供達がよく見ているので、英語も簡単に書いている。同じ意味があることなら、よく短い方や簡単な言葉を使っている。然し、その英語は、その日本語をアメリカ人に不自然な英語の翻訳に変化している。それは、英語話者のために、日本語の状況焦点の文を人間焦点に変化している。それに、言おうとすることを十分に述べない場面は言おうとすることを詳しく述べすぎる英語に変わっている。この映画を英語のバージョンで見て、ディズニーは、綺麗に訳していてアメリカ人が簡単に分かる言葉を考えて使っている。

データ出典・参考文献

Spirited Away. Dir. Hayao Miyazaki. DVD. Studio Ghibli, Buena Vista Home Entertainment, 2001.

Guardian, The. "A God Among Animators." guardian.co.uk Film. 14 Sept. 2005. 19 March.

2017. <http://film.guardian.co.uk/interview/interviewpages/0,6737,1569689,00.html>

Hinds, John, and Yoshihiro Nishimitsu. *Situation vs. Person Focus = Nihongo Rashisa to Eigo Rashisa*. Tokyo: Kuroshio Shuppan, 1986. Print.

Johnson, Michael S. "Spirited Away." Nausicaa.net. 17 Jul. 2002. Team Ghiblink. 19 March.

2017. <http://www.nausicaa.net/miyazaki/sen/>